

○議長（吉田敏郎）

日程第8 認定第7号 決算認定について（下水道事業会計）の細部説明を担当課長に求めます。

環境上下水道課長。

○環境上下水道課長（田中栄之）

認定第7号 決算認定について。

地方公営企業法第30条第4項の規定により、令和元年度開成町下水道事業会計歳入歳出決算は別冊のとおりにつき、監査委員の意見をつけて認定を求めます。

初めに、決算書の297ページをお開きください。

令和元年度開成町下水道事業報告書でございます。1、概況、（1）総括事項です。開成町公共下水道事業は、令和元年度より地方公営企業法の適用による企業会計を投入してございます。

令和2年3月31日現在の整備面積は252.1ヘクタールで、前年度と比較しまして1.4ヘクタールの増、整備人口は1万3,270人で前年度と比較しまして70人の増となっております。汚水量は年間252万7,762立方メートルで、前年に比べ2万2,046立方メートルの増でございます。

令和元年度の下水道整備は、吉田島地区、延沢地区、牛島地区において管渠の布設工事を実施してございます。これらにつきましては、社会資本整備総合交付金を活用しながら未普及地域の解消に向けた整備を進めたところでございます。

下水道設備の維持管理につきましては、宮台マンホールポンプの更新工事、それから道路舗装補修工事に伴うマンホールの補修工事などを実施してございます。

令和元年度の経営状況でございますが、収益的収入は4億7,962万4,501円、下水道使用料と他会計補助金が主な収入源でございます。収益的支出は4億5,849万4,517円で、流域下水道費と減価償却費が大きな割合を占めてございます。この結果、当年度純利益は2,112万9,984円となっております。

資本的収入及び支出の決算額は、収入が1億8,539万6,641円、企業債と他会計出資金が主な収入源でございます。支出は3億2,618万688円で、内訳としては企業債の償還金と建設改良費でございます。

今後も引き続き経営データ等を蓄積・活用しまして、下水道の整備や設備の適正な維持管理の下、公共下水道事業の運営に努めてまいりたいと考えてございます。

次に、決算書の282、283ページをお開きください。

令和元年度開成町下水道事業決算報告書でございます。（1）収益的収入及び支出です。こちらは、下水道事業の経営、運営を行うための経常的収支予算に対する決算状況を表したものでございます。収入です。第1款下水道事業収益の収入予算合計額が4億9,169万円に対しまして決算額は4億9,960万5,450円で、予算に対しまして791万5,450円の増となっております。次に、支出です。第1款下水道事業費用の決算額は4億7,476万6,901円となっております。

次に、284ページ、285ページをお開きください。

(2) 資本的収入及び支出です。この項目は、下水を処理するための施設などの投資的経費の収支予算に対する決算状況を表したものでございます。収入です。第2款の資本的収入の予算合計額が2億407万9,000円に對しまして決算額は1億8,539万6,641円となり、1,868万2,359円の減となりました。減額の要因は、工事費確定に伴いまして企業債発行額が減となっております。次に、支出です。第12款資本的支出の決算額は3億2,618万688円です。

なお、欄外に記載のとおり、資本的収入額が資本的支出額に對し不足する額につきましては、公営企業の会計処理基準にのっとり補填をしてございます。

次に、303から307ページの収益費用明細書及び資本的収支明細書でございます。こちらの詳細につきましては、令和元年度開成町歳入歳出決算事業別説明書により御説明いたします。86、87ページをお開きください。

まず、歳入になります。収益的収入、1款下水道事業収益、1項営業収益、1目下水道使用料2億3,038万5,313円、こちらは延べ3万3,994件分の調定を行ってございます。なお、企業会計の初年ということでございまして、前年が特別会計決算を行っておりますので、前年度の比較をしますと大変大きな差異が生じているところでございます。

2つ飛ばしまして、2項営業外収益、2目他会計補助金、こちらは一般会計からの補助金です。

4目長期前受戻入益、減価償却額のうち補助金で取得した部分の戻入益で、会計処理上の戻入益となっております。

2つ飛ばしまして、資本的収入に移ります。2款資本的収入、1項負担金、1目受益者負担金、令和元年度に調定した下水道受益者負担金です。前年度に比較しますと、48.5%の減となっております。

1つ飛ばしまして、2項補助金、1目国庫補助金、社会資本整備総合交付金でございます。

3項出資金、1目一般会計出資金、こちらは一般会計からの出資金でございます。

4項企業債、3つございまして、公共下水道事業に係るもの、それから酒匂川流域下水道建設事業に係るもの、下水道事業に係る起債の特例措置分、以上の3つから成っているものでございます。

88、89ページ、歳出に移ります。

収益的支出、1款下水道事業費用、1項営業費用、1目管渠費、下水道施設の維持管理に要した経費でございます。

2目流域下水道費、酒匂川流域下水道の維持管理負担金の拠出でございます。

1つ飛ばしまして、5目減価償却費、有形、無形の固定資産の減価償却費でございます。

4つ飛ばしまして、資本的支出に移ります。12款資本的支出、1項建設改良費、1目管路建設費、管渠布設工事5件を実施してございます。その他、舗装復旧工事を実施したところでございます。

1つ飛ばしまして、企業債償還金、こちらは下水道事業債の元金償還金分でございます。

それでは、決算書に戻りまして、286、287ページをお開きいただきたいと思います。

令和元年度開成町下水道事業損益計算書です。この計算書は、令和元年度の1年間の損益について税抜きで計算したものとなっております。この中では、下から4行目、収益から費用を差し引いた額でございます当年度純利益、こちらが2,112万9,980円となったということでございます。

次に、288、289ページをお開きください。

こちらは、令和元年度開成町下水道事業剰余金の計算書でございます。この計算書は、下水道事業の企業内に留保している剰余金及び資金的の変動額を表示したものでございます。後ほど御確認をいただければと存じます。

次に、292、293、294ページを御覧ください。

こちらは、令和元年度開成町下水道事業貸借対照表です。税抜き表記となっております。この表は、令和元年度末における下水道事業の財政状況を資産と負債、資本の部に区分し対照した表でございます。294ページの下から4行目、利益剰余金合計2,112万9,984円、こちらが令和元年度末における下水道事業会計の剰余金となっております。

続きまして、299ページをお開きください。

ここから、附属資料の説明となります。最初に説明いたしました事業報告の続きます。2の業務量になります。(1)の業務量でございますが、表中の4行目、年間有収水量207万9,172立方メートル、年間処理水量としまして252万7,762立方メートルとなっております。

以下、事業収入に関する事項、事業費用に関する事項、主要契約の要旨、企業債の概要となっております。後ほど御覧いただきたいと思います。

次に、301ページを御覧ください。

こちらは、令和元年度開成町下水道事業キャッシュフロー計算書で、こちら資金の流れを表したものとなっております。後ほど御覧いただきたいと思います。

続いて、302ページを御覧ください。

このページは財務諸表に関する注記でありまして、重要な会計方針、その他の注記を記載しております。

以降、固定資産明細書等につきましては、後ほど御覧いただきたいと思います。

説明は以上です。

○議長（吉田敏郎）

認定第7号 決算認定について（下水道事業会計）のを細部説明を終了とします。

ここで、既に説明済みのことに関しまして修正の発言を求められておりますので、許可します。

財務課長。

○財務課長（小宮好徳）

すみません。１点、修正をお願いしたいと思います。

決算書になりますけれども、４ページ、御覧いただきたいと思います。４ページの日付が「令和２年７月１３日」になってございます。こちら、審査の期日が６月３０日というところで、この日付を間違えてございました。「令和２年６月２９日」に修正をお願いしたいと思います。大変申し訳ございませんでした。

以上でございます。

○議長（吉田敏郎）

以上をもちまして、本日の日程は全て終了となりました。

なお、次回は１０日（木）に一般会計決算の質疑を行います。

本日は、これにて散会します。大変お疲れさまでした。

午前１１時５５分 散会